Dietrich Henschel

©Partricia Wlenski

シューベルトが最期に遺した
リート史にきらめく不朽の傑作

失恋。孤独。絶望。
人生の底をさまよう苦悶の旅。

F・シューベルト：冬の旅
D 911
Franz Schubert : Winterreise D 911

おやすみ　風見の旗　凍った涙　氷結　菩提樹　溢れる涙
川の上で　回想　鬼火　休息　春の夢　孤独
郵便馬車　霜おく頭　からす　最後の希望　村で　嵐の朝
まぼろし　道しるべ　宿屋　勇気　幻の太陽　辻音楽師

ディートリヒ・ヘンシェル（バリトン）

シューベルト「冬の旅」D911

2023 10.19 木 19:00開演（18:30開場）

浜離宮朝日ホール

一般：¥5,800　U30：¥2,000
※全席指定・税込

〒104-8011　東京都中央区築地5-3-2 朝日新聞東京本社・新館2階

一般発売 7月8日（土）10:00～

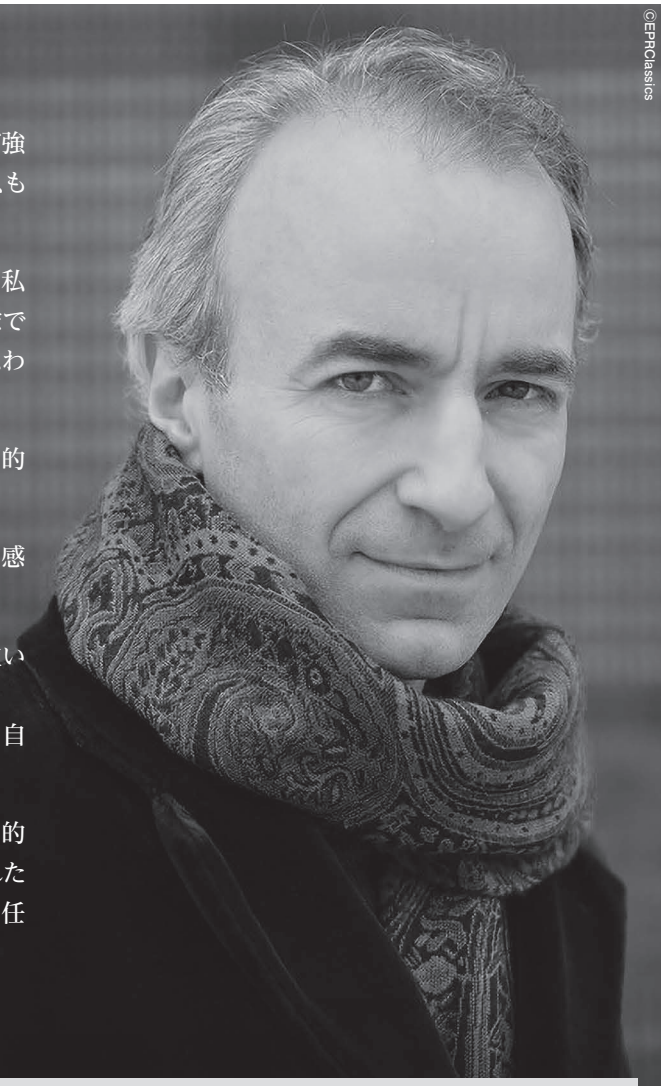
プレイガイド
●朝日ホール・チケットセンター　03-3267-9990（日・祝除く10:00～18:00）
https://www.asahi-hall.jp/hamarikyu/　朝日ホール・チケットセンター　検索
※U30の取り扱いは朝日ホール・チケットセンターのみ（座席選択は出来ません）
●イープラス　https://eplus.jp/asahihall/　●チケットぴあ　https://t.pia.jp/

主催：朝日新聞社／浜離宮朝日ホール　特別協賛：竹中工務店
お問合せ：朝日ホール・チケットセンター 03-3267-9990（日・祝除く10:00～18:00）

※就学前のお子様はご入場いただけません。託児サービスをご利用くださいませ（要予約）。【託児サービスのお問合せ・お申込み】イベント託児・マザーズ：0120-788-222
※U30は公演日当日に満30歳以下である方が対象。公演当日、生年月日のわかる身分証（顔写真付き）をご提示の上、座席指定券と交換してご入場ください。
※都合により公演内容が変更となる場合がございます。　※公演延期・中止の場合を除き、チケット代金の払戻しはおこないませんので予めご了承ください。

岡原慎也（ピアノ）
Shinya Okahara, piano

シューベルト「冬の旅」に寄せて


©EPRClassics

多くの人が歌曲集「冬の旅」に特別な思い入れを持っています。信じがたいほど強烈に人々の感情を揺さぶり、人々の涙を誘い、魅了します。その哀愁と寂寥感は、もはや中毒的とさえいえます。

ペーター・シュライアーがこの曲を歌うのを聴いたとき、思春期の若者であった私の心はがっしり掴まれました。大人ぶって冷静を装ったものの、曲が「溢れる涙」まできた時ついにこらえることができず、涙が溢れ出ました（それを恥ずかしいとも思わなかったことに、自分でも驚きました）。

主人公が、自分の感情さながらに凍りついた河へ向かって語る（歌う）姿は感動的で、私は深く共感せずにはいられませんでした。

この曲は自己内省の物語であり、絶望、内なる痛み、悲しみ、皮肉が入り混じった感情が、繰り返し堰を切ったように溢れ出し、多くの聴衆を惹きつけてやみません。

これほどに聴くものの感情を強く揺さぶる作品を演奏するには、演奏者として重い責任が伴うことを、初めて歌ったときから現在まで常に感じています。
「冬の旅」の歌い手に必要なのは、技巧を披露したり讃えたりすることではなく、自分自身を映し出し、内なる人生を表出することです。魂の演奏が求められます。

この作品に初めて取り組んでから年月が経ちましたが、このシューベルトの奇跡的ともいえる音楽の力を前にすると、いまだに、「冬の旅」を初めて聴いて圧倒された思春期の未熟な自分に戻ったように感じます。とはいえ、私の歌い手としての責任は年と共に大きくなっています。全力をかけて歌います。

ディートリヒ・ヘンシェル

ディートリヒ・ヘンシェル（バリトン） Dietrich Henschel, Baritone

世界の主要オペラハウスにたびたび招かれ、歌曲、オラトリオ、また幅広いマルチメディアプロジェクトにも取り組む、現代屈指のバリトン歌手。モンテヴェルディから革新的な現代音楽まで幅広いレパートリーを誇る。

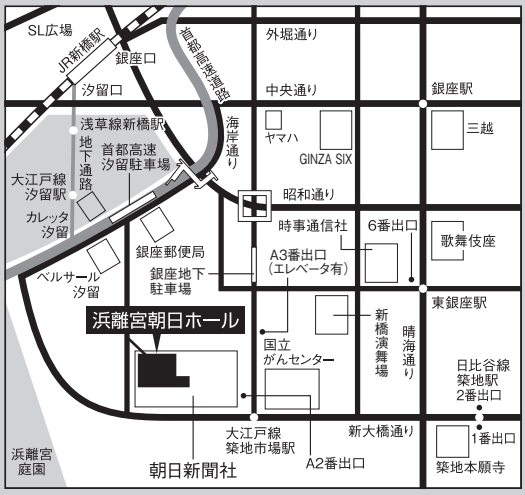
リヨン歌劇場とパリ・シャトレ座の共同制作、ブゾーニ「ファウスト博士」でグラミー賞を獲得し、国際的キャリアをスタート。以来、ヨーロッパの主要歌劇場、ザルツブルク、エクサン・プロヴァンス、フィレンツェなどの音楽祭に出演多数。また現代オペラでも、ペーテル・エトヴェシュ、デトレフ・グラナート、マンフレート・トロヤーン、ペーター・ルジツカ、ハヤ・チェルノヴィンなどの作曲家がヘンシェルに役を書き、初演を行っている。

カンブルラン、ナガノ、シャイー、ユロフスキなど著名指揮者のもとオーケストラとの共演多数。ガーディナー、ヘレヴェッヘ、アーノンクール、コリン・デイヴィスとは、オラトリオのレコーディングを行っている。近年は歌曲と映像を融合させた舞台にも力を注ぎ、シューベルト「白鳥の歌」舞台版をモネ劇場、アン・デア・ウィーン劇場、ノルウェー・オペラ・ハウス、ベルリン・コーミッシェ・オーパーなどで上演。ヴォルフ「Irrsal-Forbidden Prayers（狂気の一禁じられた祈祷者たち）」プロジェクトは大成功を収め、続くマーラーの「不思議な角笛」でも、デ・ドーレン、BBC交響楽団、モネ劇場などと国際共同プロジェクトを展開し、話題を呼んだ。

2022/2023シーズンは、モネ劇場にてR.シュトラウス「ばらの騎士」、フィレンツェ市立劇場にてブゾーニ「ファウスト博士」の新プロダクション、トゥール・オペラ座にてドニゼッティ「リタ」などに出演。またシュトゥットガルト放送交響楽団とマーラー「子供の不思議な角笛」、バレアレス交響楽団とマーラー「大地の歌」、プラハ国立歌劇場とシェーンベルク「グレの歌」、ボン劇場にてシェーンベルク「モーゼとアロン」初のモーゼ役などを予定している。

岡原慎也（ピアノ） Shinya Okahara, piano

4才よりピアノを始める。東京芸術大学音楽学部付属高校を経て東京芸術大学に入学、在学中より演奏活動を始める。同大学卒業後、ドイツに留学。ベルリン芸術大学、ミュンヘン音楽大学マスタークラスにおいて研鑽を積み、FM放送に出演等、ドイツ各地で演奏をする。帰国後、ベートーベンのピアノソナタ全曲演奏や各地でのリサイタル、コンチェルト等で高評を博す一方、シューベルトやヴォルフの歌曲の全曲演奏など、ドイツ歌曲や室内楽のパートナーとしても精力的な活動を展開し、1994年にはヘルマン・プライ、そして95年にはテオ・アダムと共演を果たし、NHK芸術劇場で放映される。1996年にはディートリヒ・ヘンシェルの初来日公演を自らプロデュースし、翌97年のシューベルトイヤー、99年のR.シュトラウスイヤーの全国ツアーを成功させる。その活動は国内のみにとどまらず、チェスキー・クルムロフ音楽祭、リヒャルト・シュトラウス音楽祭、そしてグラン・カナリア音楽祭などに招待され、ソリスト、歌曲のパートナー、室内楽奏者として幅広く活動している。また、2006年春にはチェコにおいて指揮者としてもデビュー、ウィーンフィルの主力メンバーからなるシュトイデ・カルテットとザルツブルグ、ウィーン、大阪でのツアーも成功させる。また、ヘンシェル、同じくバリトンのシュテファン・ゲンツ、チェコのマルティヌー・カルテットなど、国内外で共演を重ねる海外アーティストも多い。ヘンシェル、ヘルムート・ドイチュらと隔年で開催する「ドイツ歌曲解釈の夏期講習」はドイツ、オーストリア、日本で計7回開催され、多くの若い音楽家たちが巣立っている。1993年京都音楽賞、96年大阪文化祭賞本賞、そして2001年には音楽クリティッククラブ賞、2012年には第66回文化庁芸術祭優秀賞を受賞。これまでに20枚以上のCDがリリースされている。現在、大阪音楽大学特別教授および名誉教授。日本ドイツリート協会会長、ポラリス国際音楽祭音楽監督。



浜離宮朝日ホール

東京都中央区築地5-3-2 朝日新聞社 新館2階
TEL.03-5541-8710

交通のご案内 | 都営地下鉄大江戸線「築地市場」駅A2出口すぐ
エレベーターはA3出口